

## アメリカの人権至上主義

### 安易な原理主義と過激思想は何をもたらすのか

鈴木頌

8月初旬に行われたペロシの訪台は、アメリカという国が全体としてきわめて唯我独尊的になってしまったことを象徴的に示す事件だった。

事件の経過については下記をご参照いただきたい。

台湾報道 日経新聞の3日間

<http://shosuzki.blog.jp/archives/88798263.html>

中国の反撃もただならぬ物があって、行動だけ見ればずいぶん鳴り物入りではあるが、今から考えれば、米政府の公認付きの腹いせ騒ぎとも取れる。

だから、それぞれの場面を取り出してみれば、ある意味で茶番とも取れる一連の出来事だが、逆に言えば茶番のような話が現実の事件になって、あれよあれよと状況が展開していくところに、この事件の底知れない恐ろしさがある。

#### トランプが異端でなくなった米国の怖さ

ちょっと前までは、「安易な発想・過激な行動」といえばトランプのオハコだったが、トランプ政治に体を張って対抗していたはずの民主党が、いままさにトランプ型劇場政治の先頭になっている。

ここにアメリカという国自身が、ギシギシと音を立てながら重心を移動させている、今日的状況が象徴されている。

それを踏まえると、中期的トレンドで見て一番の危険は、世界全体の情勢評価、価値判断基準で米国の、とくに草の根保守のそれとそれ以外の国との乖離が進むことである。

それは必ずしも中期的問題とは言えないかもしれない。

一方では冬を前にしてウクライナ戦線が何らかの停戦に向けた動きを示さなければならぬ状況が出現せざるを得ないからである。

そして一方では、トランプ型政治をとりあえず一度は押し返した米国で、ふたたび扇動型政治が息を吹き返し、デマ攻撃と国際常識無視の横車を押し通すかもしれないからである。

そうなった場合、もはや米国の尻馬に乗ってついていくだけの外交は不可能になるかもしれない。

### **無自覚な米同盟主軸論からの脱却を**

もちろん軍事同盟など止めて非同盟・中立の政治に移行しなければならないのは当然だ。

しかしいま問題になっているのはもう少し差し迫った問題だ。大きく言って3つの問題がある。

#### **1 . ヨーロッパは持たない**

冬を前にして欧州エネルギー危機は深刻化する。というより持たない可能性、ガス切れで命が切れる危険性がある。

それより前に、無謀な戦闘を続けるウクライナへの警戒感が露呈するかもしれない。

2 . 米国にはヨーロッパを支える力はない。その気もない。

米国の正面は中国であり、二正面を戦う力はない。欧州は見捨てられるかもしれない。

3 . 中国と新興国、途上国は欧米諸国の論理に付き合うつもりはない。

ロシアの戦争には反対だが、戦争の継続は望まない。独自の平和路線をとる可能性もある。それは米国の孤立を意味する。

中間選挙での民主党の惨敗と右旋回、冬を前にしての欧州エネルギー危機、途上国での食糧危機の深刻化。

年内、あと数ヶ月の間に中間選挙があり、民主党の惨敗と右旋回、これらを背景にした世界の米国離れ、米国抜きの世界秩序への模索が急速に進む可能性がある。

我が国も日米同盟主軸論に無自覚にどっぷり漬かったままでは済まされない時がやってくるかもしれない。